

ヤフー系と代理店契約

シーエムエー本格参入

検索連動型ネット広告



ネットビジネスのコンサルティング会社、シーエムエー(浜松市、島上勝則社長)は検索連動型ネット広告事業に本格参入する。十二月にネット広告大手のオーバーチュア(東京・港)と県内で初めて代理店契約を締結。検索サイトと連動した広告サービスを県内企業などに提供する。従来のネット広告よりも営業効果が高い手法で、企業の情報発信を支援する。

検索連動型ネット広告とはヤフーなどの検索エンジンで使用したキーワードに応じて広告を表示するサービス。例えば、静岡県内のミカン農家がネットで広告を打つ場合、「ミカン」と「静岡」の両方の単語を対象キーワードに設定。このキーワードでの検索結果を示す画面の上部などに「スポンサーサイト」として広告を表示する。どのキーワードの組み合わせと広告を連動させるかで効果が大きく異なるという。

不特定多数の人に広告を出すよりも、関心が高い人に広告を表示できるため、実際に販売につながる可能性が高い。また、広告の表示も限定されるため、費用も抑えられる。ヤフー子会社のオーバーチュアは検索連動型広告の製作を代行する

オーバーチュアからは検索連動型広告を運用するノウハウの提供も受け、より効率的な広告を提案できるようにする。県内でもほかに検索連動型広告の製作を代行する業者はあるが、オーバーチュアからのノウハウ提供がある代理店はより制度が高いキーワード設定などが可能になる。

十月に同広告事業の専門チームも創設。検索連動型広告だけでなく、顧客企業のホームページの改善なども提案していく。同社ではネット広告事業の売り上げを来年度

末までに現在のほぼ倍の二億五千万円前後へ伸一月期の売上高は三億二千万円、年間一億五千万円、年間一億五千万円。